

琉球・沖縄の歴史——海との関わりと将来への展望

安里 進（沖縄県立芸術大学名誉教授）



まわりを海に囲まれた沖縄の 3つの自然的・歴史的特質

- ① 北限のサンゴ礁地帯
- ② 中国・朝鮮・日本という歴史的先進地域に囲まれた島嶼群
- ③ 東アジア～東南アジア諸国と海洋でつながる

こうした自然的・歴史的な環境のうえに
琉球・沖縄の歴史が展開した。

琉球・沖縄の歴史のなかで
沖縄県民が誇りに思い 沖縄の将来の指針としているのが
「万国津梁の鐘」に象徴される15～16世紀の「大交易時代」だ。

そして、近年の観光産業の発展で、観光経済を基軸にした
「大観光時代」到来への期待が高まっている。

では 大交易時代にならぶ沖縄の大観光時代は到来するのか？
この近未来を 沖縄の歴史体験としての大交易時代を
ふり返りながら考えてみたい。

朝鮮

日本

中国

琉球列島

サンゴ礁の分布

Data Book of Sea-Level Rise 2000から作製

大交易時代には **前史—発展—終焉** というプロセスがある。

大交易時代を準備したのは何か？

大交易時代へと発展させ 終焉させた要因は何か？

このプロセスを

人流と物流・人と物の運搬手段・資源・国際環境 から考えてみる

キーワード

- ・ 北限のサンゴ礁地帯
- ・ 経済資源としてのサンゴ礁
- ・ 戦争と紛争 そして競争

朝鮮

日本

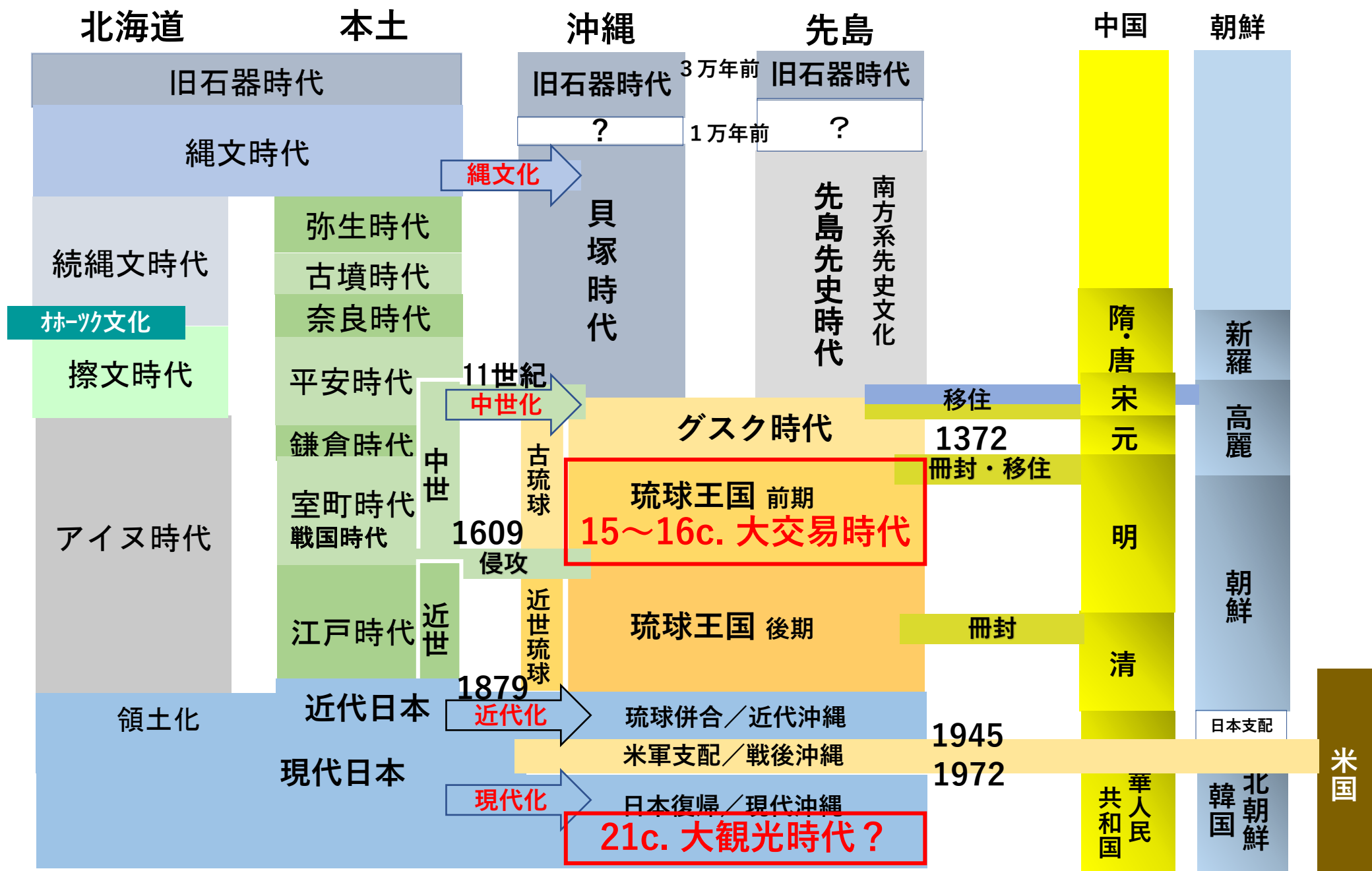
中国

琉球列島

サンゴ礁の分布

Data Book of Sea-Level Rise 2000から作製

琉球・沖縄の歴史展開図



琉球の大交易時代とは

琉球王国が 中国（明）との冊封―朝貢関係を背景にして
海外交易で繁栄した

15〜16世紀を中心にした時代。

「万国津梁の鐘」冒頭の銘文

琉球国は 南海の勝れた土地で

朝鮮の秀でた文物を集めている

中国とは車の両輪の関係で

日本とは歯と唇のように親しい

中国と日本の間に湧き上がった理想郷だ

交易で万国の架け橋となり

異国の宝物が国中に満ち溢れている

土地や人の心も

中国や日本の徳の教えを招いている

琉球国者南海勝地而
鍾三韓之秀以大明為
輔車以日域為唇齒在
此二中間湧出之蓬萊
嶋也以舟楫為万国之
津梁異產至宝充滿十
方利地靈人物遠扇和
夏之仁風故吾

万国津梁の鐘

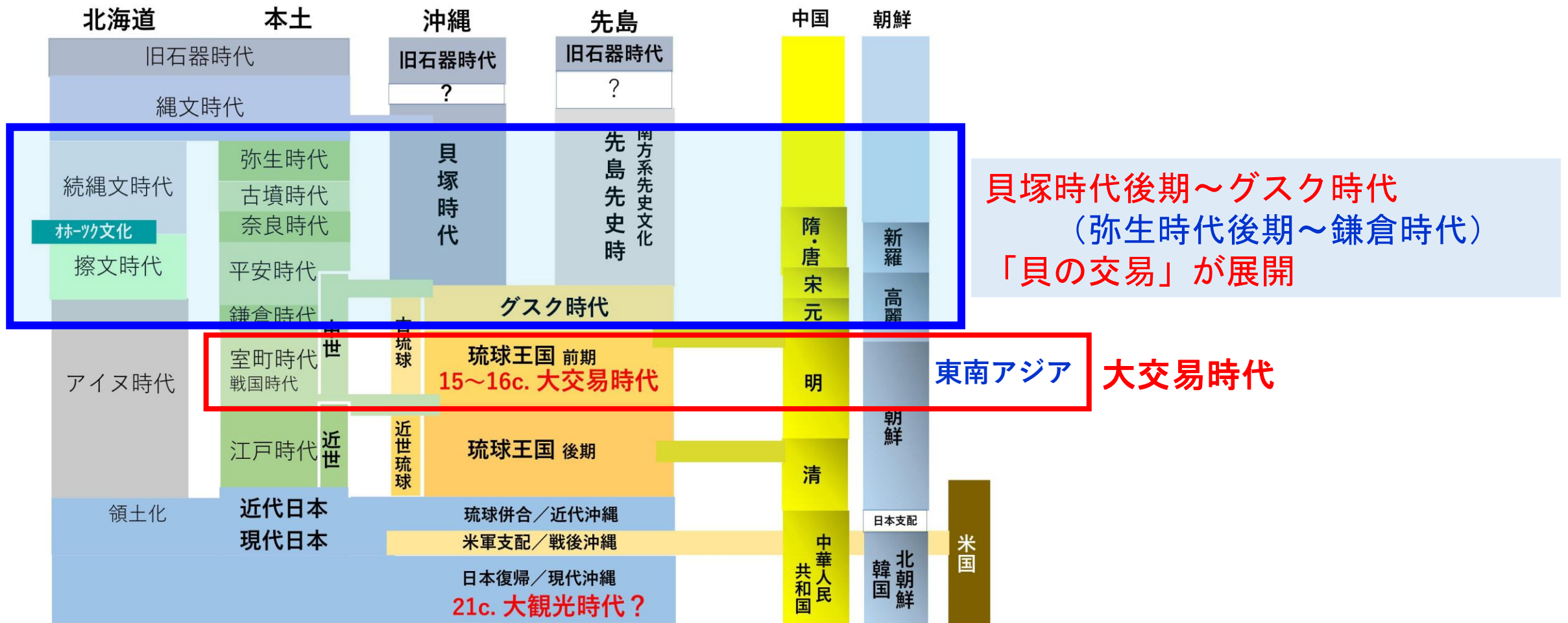


大交易時代の前史——貝の交易の展開

15～16世紀の大交易時代は 中国（明）との冊封一朝貢関係を契機に始まった。

この関係が大交易時代へと展開できた前提に

1000年余にわたって 日本・中国・朝鮮・北海道におよぶ
「貝の交易」という前史があった。



琉球列島の貝塚時代(後期)は、島々の沿岸に形成されたサンゴ礁での漁撈を中心にした漁撈社会

サンゴ礁の海で採れる 大型貝のゴホウラ・イモガイが 東アジアへの交易品として流通
交易社会へと変化していった。



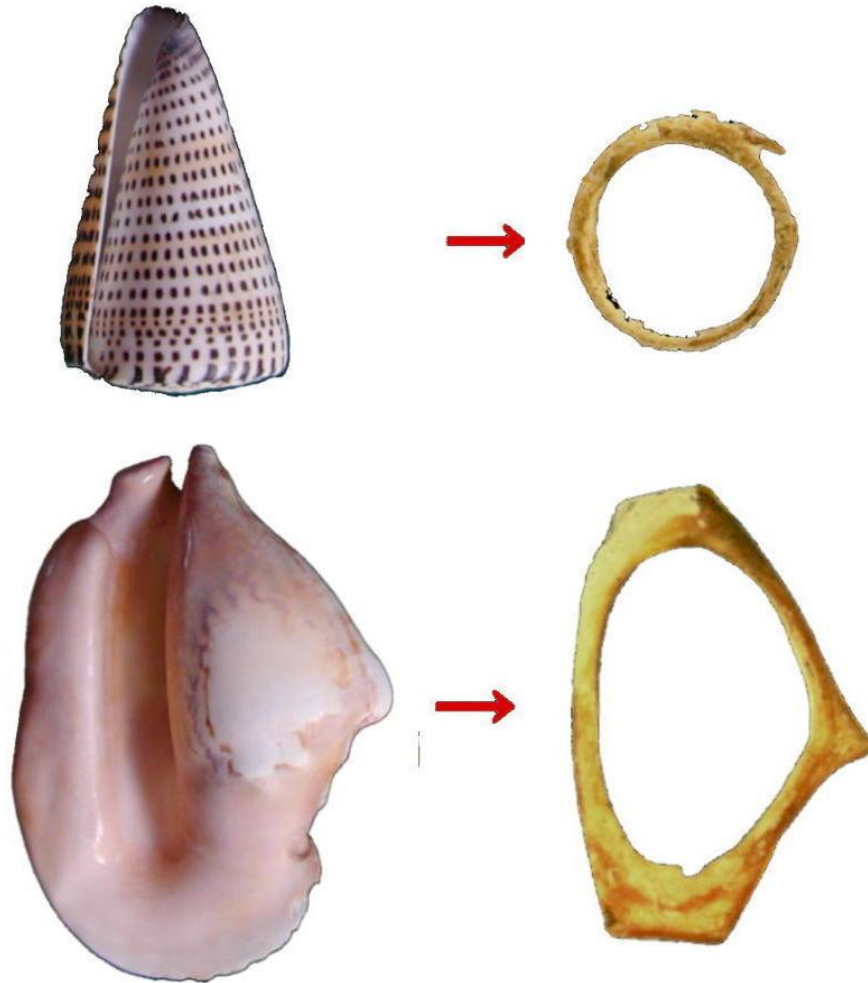
ゴホウラ



イモガイ

琉球列島のゴホウラ・イモガイは 腕輪の素材として九州の弥生人と交易され
九州で腕輪に加工されて 日本・朝鮮・北海道にまで流通した。

とくに北九州では 霊力がある腕輪として 弥生社会の首長たちが装着した。



ローマ

陸のシルクード

長安

奈良

唐

貝匙・螺鈿の材料を求めて琉球列島に渡来

貝塚時代
後期

ヤコウガイ
サンゴ礁の大型貝

貝匙の材料

漆器の材料(螺鈿)

7~8世紀 には 琉球のヤコウガイが 東アジアに流通した

10～13世紀 宋～元の時代

中国（宋）で 大型船の建造技術が発達 + 羅針盤も発明
大量物流の時代がはじまる。

宋商人が 泉州を起点に 東アジア～アフリカにかけて
大交易ネットワーク（海のシルクロード）を構築
「世界の富はみな泉州に集まる」といわれた。

その余波が琉球列島にも及び
グスク時代の開始のキッカケになる。



10～11世紀（宋代） 東アジアの物流・人流



大交易時代の前史——貝の交易の整理

琉球列島のサンゴ礁の貝が 東アジアに流通（貝の交易）

貝の交易の前提——中国・朝鮮・日本という先進地域に囲まれた
北限のサンゴ礁地帯という地理的位置

経済資源としてのサンゴ礁

サンゴ礁の貝交易という物流にともなう人流

主に 日本・中国側から琉球に渡来する交易形態

貝の交易をとおして 貝塚時代後期社会が

漁撈採集社会から交易社会へ変化

中国

朝鮮

日本

琉球列島

サンゴ礁の分布

Data Book of Sea-Level Rise 2000から作製



大交易時代の始まり

13世紀 貝の交易で形成された交易社会のなかから
琉球列島各地に地域首長が登場
城塞的グスクを築いて覇権を争う大型グスクの時代

14世紀 沖縄島に中山・山北・山南の小王国が誕生

15世紀前半 首里城の中山が沖縄を統一



14世紀後半～15世紀の東アジア

明国の成立

朝鮮

朝貢・冊封

室町幕府

朝貢・冊封

琉球
王国

中国を宗主国にした国家（琉球国）として国際社会に登場



琉球王国が 明の朝貢国になると

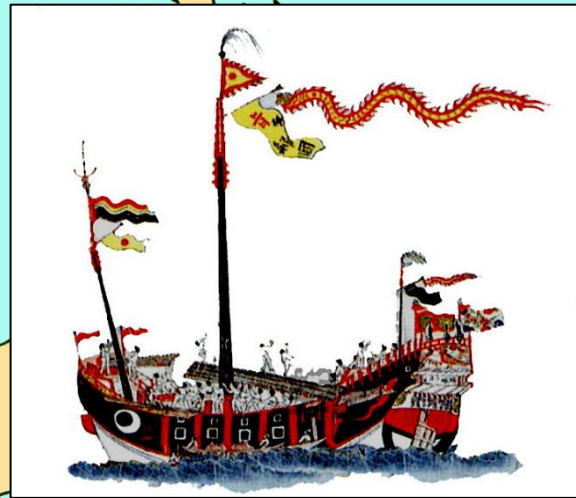
朝貢貿易で 中国陶磁器などの中国商品を大量に入手
大型船舶も支給された

一方 明の海禁政策で中国商人（海商）の海外渡航が禁止
中国商人に代わって 琉球王国が

中国商品と東南アジアの香辛料等の転売を中心にした中継貿易で
巨利を得る「大交易時代」が始まった。



香料・香辛料



大交易で儲けた利益はどうしたか？ インフラなど土木建築事業に投入

琉球王国の世界遺産など 現在残る琉球王国の石造建造物の多くはこの時代に造られた



王宮の整備



王陵の造営



都市の整備



幹線道路の整備



寺院の建造（円覚寺）

大交易時代の終焉

16世紀～17世紀初めに

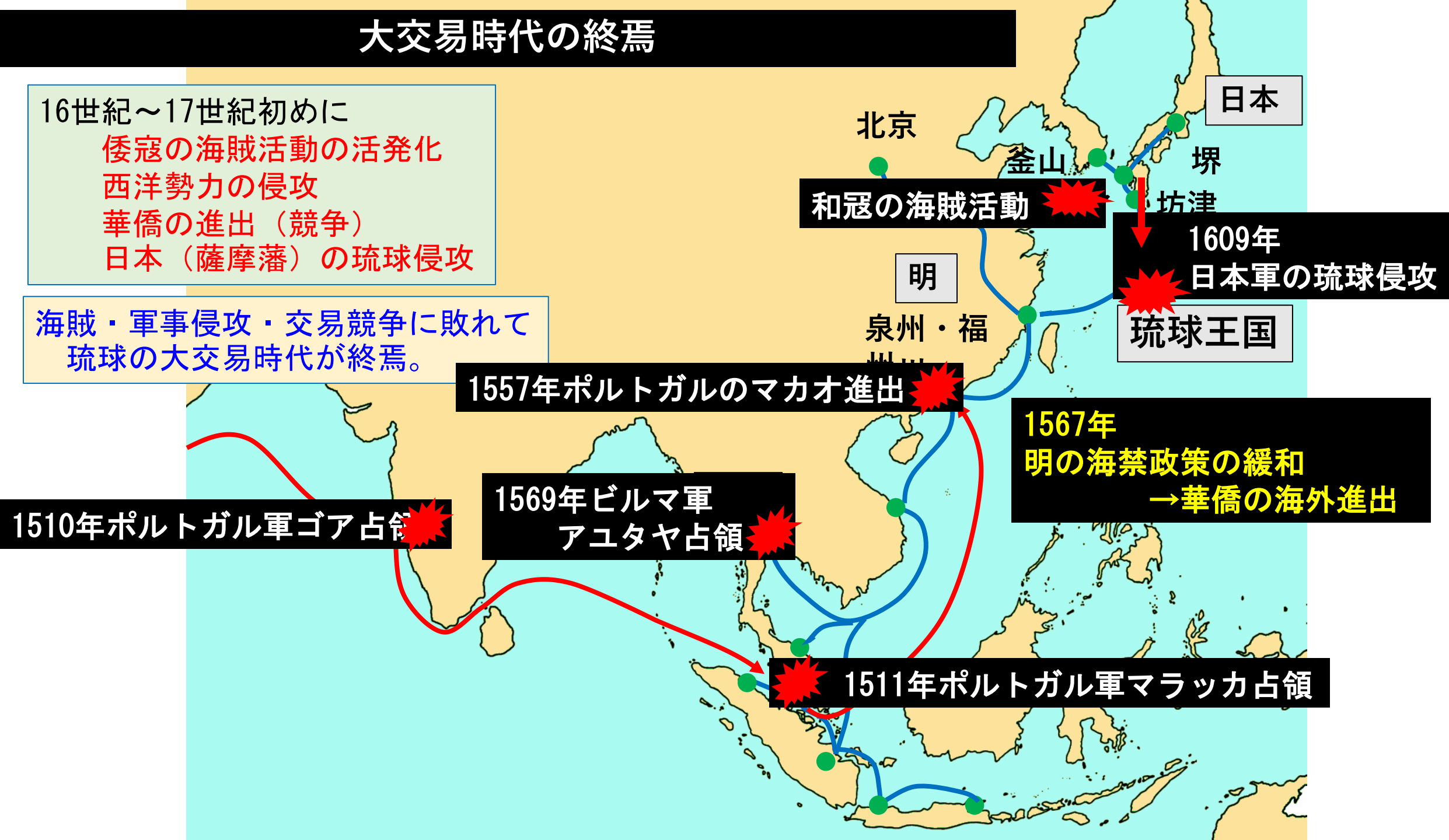
倭寇の海賊活動の活発化

西洋勢力の侵攻

華僑の進出（競争）

日本（薩摩藩）の琉球侵攻

海賊・軍事侵攻・交易競争に敗れて
琉球の大交易時代が終焉。



大交易時代の整理

大交易時代に発展した要因

- ・ 貝の交易で交易社会化してきた前史がある
- ・ 中国との朝貢貿易で 大量の陶磁器を入手
- ・ 大量運送手段としての大型船舶の入手
- ・ 中国の海禁政策（海商の撤退による交易競争の空白）

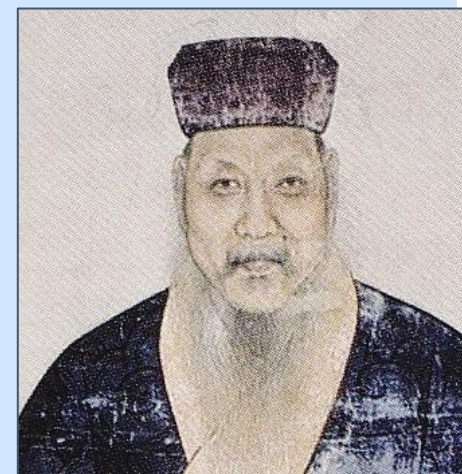
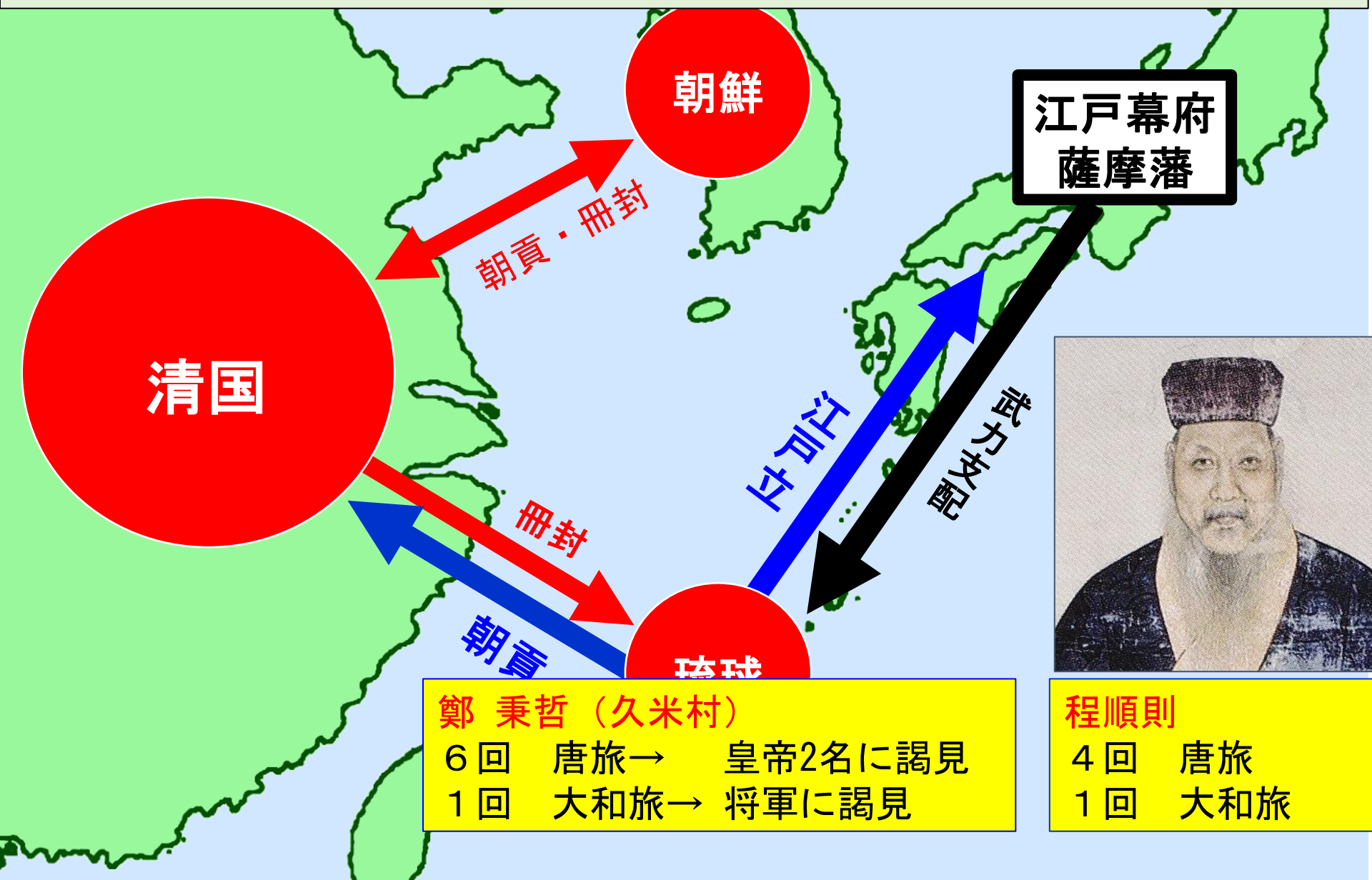
大交易時代が終焉した要因

- ・ 戦争・紛争・海賊（アジア海域の不安定化）
- ・ 中国海商の台頭（交易競争）



大交易時代の終焉後の琉球王国

「鎖国」する 東アジアの国々のなかで 国際交流する琉球人



程順則

4回 唐旅
1回 大和旅

鄭 秉哲 (久米村)

6回 唐旅→ 皇帝2名に謁見
1回 大和旅→ 将軍に謁見

渡辺美季

『琉球からみた世界史』

琉球人は、一定数が定期的に日中両国に赴き、直接各地の文化や習慣に触れ、現地の人々と交流し、国や土地ごとの違いを見聞し、その体験を国内に還元していた。

武力支配・冊封朝貢関係のなかでの国際交流を通して
独自の工芸文化・科学技術の発達・琉球的な風俗→ 新たな「琉球化」＝自己意識の高まり



今日、「琉球文化」と言われているものの多くは 大交易時代のあとに生まれた

大観光時代は到来するのか——大交易時代から考える

- ・ 大交易時代と大観光時代は 物流主体と人流主体の違い 国際環境の違い など異なる要素が多く単純には比較できないが 共通する要素・要因もある。

大交易時代と大観光時代の共通要素

- ・ 経済資源としてのサンゴ礁

貝の交易・大交易時代をととして サンゴ礁の貝など海産物が交易資源
大観光時代では サンゴ礁の自然的魅力が観光資源

- ・ 歴史的先進地域に囲まれた北限のサンゴ礁地帯という特質は

大観光時代でも重要な要素ではないか。

中国・朝鮮・日本本土にとって 近場の大サンゴ礁地帯は大きな魅力
沖縄にとっても 近隣からの安定的な観光客の来訪が期待できる。

大観光時代到来の阻害要因

- ・ 海岸の埋め立ての進行——サンゴ礁の破壊
- ・ 戦争・紛争の脅威

沖縄の国際政治的位置

- ・ 大交易時代は 琉球王国という独立国家の時代に実現した
- ・ 日本の一県という枠内で 大交易時代にならぶような大観光時代が実現できるのか
歴史的には未知数。

ご静聴ありがとうございました